

日本文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文学概論	王朝物語文学の世界	2	横溝 博	3	前期金曜日3講時	国文学概論
日本文学概論	日本近現代文芸の世界	2	仁平 政人	4	後期金曜日3講時	国文学概論
日本文学基礎講読	『平家物語』を読む	2	佐倉 由泰	3	前期金曜日2講時	国文学基礎講読
日本文学基礎講読	『天徳内裏歌合』を読む	2	横溝 博	4	後期金曜日2講時	国文学基礎講読
日本文学各論	戦後文学の諸問題	2	仁平 政人	5	前期月曜日2講時	国文学各論
日本文学各論	軍記物語の表現史	2	佐倉 由泰	5	前期火曜日2講時	国文学各論
日本文学各論	『源氏物語』の成立と展開	2	横溝 博	6	後期月曜日2講時	国文学各論
日本文学各論	軍記物語の表現史	2	佐倉 由泰	6	後期火曜日2講時	国文学各論
日本文学各論	古典文学における「陸奥」	2	松本 真奈美	集中	集中講義	国文学各論
日本文学演習	『石清水物語』の研究	2	横溝 博	5	前期月曜日4講時	国文学演習
日本文学演習	『石清水物語』の研究	2	横溝 博	6	後期月曜日4講時	国文学演習
日本文学演習	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	5	前期水曜日2講時	国文学演習
日本文学演習	大正期の短編小説の研究	2	仁平 政人	6	後期水曜日2講時	国文学演習
日本文学演習	中世の日記文芸、紀行文芸の研究	2	佐倉 由泰	5	前期木曜日2講時	国文学演習
日本文学演習	中世の日記文芸、紀行文芸の研究	2	佐倉 由泰	6	後期木曜日2講時	国文学演習

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB35301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学概論

1. 授業題目：王朝物語文学の世界

2. Course Title (授業題目)：World of Ōchō Monogatari: tales of the Heian and Kamakura periods

3. 授業の目的と概要：日本の物語文学はいつ発生し、いつ終息したのか——。本講義では『源氏物語』に代表される王朝物語文学の成立と展開の様相を、物語文学を取り巻く様々な文芸ジャンルとの相関のもとに、種々の作品テキストを取り上げつつ探っていく。王朝物語の時代は平安から室町と長きにわたるが、とりわけ王朝物語という文芸ジャンルが物語作者の存在意義とも絡んで取り沙汰されるようになる院政期から鎌倉中期を中心に、散逸した物語の資料をも重要な手がかりとしながら、物語文学というコンテンツの消長を探っていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：When did Japanese narrative literature emerge and when did it end? This lecture will explore the development of the Ōchō Monogatari (tales from the Heian and Kamakura periods), such as the Tale of Genji, by examining various texts of the works, in relation to various literary genres surrounding narrative literature. The era of the dynasty tales extends from Heian to Muromachi. This lecture also explore the fate of narrative literature, using lost stories as clues.

5. 学修の到達目標：(1) 日本の物語文学について、作品もしくはその断片、関連資料の分析を通して、その特質と史的展開に関する理解を深める。

(2) 古典作品を読解・鑑賞するに際しての基本的な知識を習得することで、王朝物語の文化史的意義について把握できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To deepen the understanding of the characteristics and historical development of Japanese literature through the analysis of works or fragments thereof and related materials.

(2) By acquiring the basic knowledge for reading and appreciating classical literature, students will be able to understand the cultural historical significance of dynasty stories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

(以下は本講義で扱うトピックスを列挙したものであり、実際の授業の順序もしくは進度とは異なる)

- 01 王朝物語史（現存物語、散逸物語）
- 02 前期物語（竹取物語、うつほ物語、落窪物語、住吉物語）
- 03 源氏物語（補作を含む）
- 04 後期物語（狭衣物語、夜の寝覚、浜松中納言物語）
- 05 院政期物語（海人の刈藻、とりかへばや、有明の別れ）
- 06 歴史物語（大鏡、栄花物語）
- 07 物語評論（無名草子、今鏡）
- 08 物語歌合（物語二百番歌合）
- 09 物語歌集（風葉和歌集）
- 10 中世王朝物語（鎌倉時代）
- 11 中世王朝物語（南北朝時代）
- 12 中世王朝物語（室町時代）
- 13 和歌と物語、歴史と物語、物語と絵画
- 14 物語の作者と読者（六条齋院物語歌合）
- 15 王朝物語の終焉（室町時代物語、お伽草子）

8. 成績評価方法：

学期末に提出するレポート〔50%〕と出席〔50%〕をもって評価する。なお、毎時間提出するミニツツペーパーの記載内容も、評価の対象とする。

9. 教科書および参考書：

基本的にはプリントを使って授業を進める。参考書は授業の中で随時紹介する。なお、一度配布した資料は繰り返し使用するので、毎時間用意すること。樋口芳麻呂編『王朝物語秀歌撰(上) 物語二百番歌合・風葉和歌集上』(岩波文庫、1987)、同『王朝物語秀歌撰(下) 風葉和歌集下・源氏物語歌合』(岩波文庫、1989)は本講義のバイブル(但し購入を必須とするものではない)。

10. 授業時間外学習：作品を通読するのは困難としても、王朝物語史に関しては様々な学術書が存在するので、授業で紹介したものを含めて、可能な限り手に取り、概要の把握に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本講義は第4セメスターも連続して履修することが望ましい。

科目名：日本文学概論／ Japanese Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB45301, 科目ナンバリング：LHM-LIT201J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学概論

1. 授業題目：日本近現代文芸の世界

2. Course Title (授業題目)：Study on Japanese Modern Literature

3. 授業の目的と概要：明治時代から第二次世界大戦中に至るまでの多様な小説を取り上げ、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的に分析するとともに、テキスト分析の方法や、日本近現代文学の形成過程などについて概説を行う。毎回の授業の終わりに、授業内容について考えたことや質問を提出してもらおう。次回の授業で、その回答や補足説明も行いながら授業を進める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture, we will analyze a variety of literary works from the Meiji era to the Showa era, with a view to their cultural and social contexts.

5. 学修の到達目標：(1) 日本の近現代文学について、文化的・社会的な文脈を視野に入れて具体的な分析を行うことをとおして、その多様な特質に関する理解を深める。

(2) 文学テキストを分析する基本的な方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the diverse characteristics of modern Japanese literature, including its relationship to cultural and social contexts.

(2) To learn basic methods of analyzing literary texts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 概説：翻訳と日本近代文学の成立
3. 物語論の基礎
4. 樋口一葉「たけくらべ」①
5. 樋口一葉「たけくらべ」②
6. 田山花袋「少女病」
7. 志賀直哉「小僧の神様」
8. 芥川龍之介「雛」
9. 横光利一「蠅」
10. 江戸川乱歩「人間椅子」
11. 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」
12. 宮沢賢治「なめとこ山の熊」
13. 太宰治「魚服記」
14. 岡本かの子「老妓抄」
15. 坂口安吾「真珠」

なお、質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。

8. 成績評価方法：

最終レポート(50%)・授業への出席50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品について、事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB35205, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学基礎講読

1. 授業題目：『平家物語』を読む
2. Course Title (授業題目)：Study on “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)”
3. 授業の目的と概要： 文学表現（古文）を読み解くには何に注意し、何に注目し、どのような手順で考察を進めればよいのかということ、『平家物語』の表現の調査、分析、報告、討議を重ねる中で理解して行く。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will understand how to think about Japanese classical literature by practicing of reading and interpreting “The Tale of Heike (平家物語 Heike Monogatari)” .
5. 学修の到達目標：(1) 変体仮名の文を読み解けるようになる。
(2) 多様な辞書、事典が活用できるようになり、必要な文献も適切に探せるようになる。
(3) 写本の文化を理解し、諸本間の本文の相違に注目して、精度の高い表現の読解ができるようになる。
(4) 作品を発見的に解釈するためには、表現の細部の読解がいかんたいせつかということ考察の実践を通して理解する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about Japanese classical literature creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. はじめに一文学表現を読み解くために一
 2. 『平家物語』を読むにあたって
 3. 『平家物語』を読むにあたって
 4. 変体仮名を読むために
 5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書：かな研究会編『実用変体がな』（新典社）
参考書：授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

また、各回の講読、考察、意見交換の積み重ねの中で適切な段階を踏んで理解を深めて行く必要があり、そのためにも、必ず応分の予習をして毎回の授業に臨んでもらいたい。予習すべき内容については授業の中で説明するので、第1回の授業から出席し、その内容をよく理解すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本文学基礎講読／ Japanese Literature (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB45204, 科目ナンバリング：LHM-LIT212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学基礎講読

1. 授業題目：『天徳内裏歌合』を読む

2. Course Title (授業題目)：Read "Tentoku Dairi Uta-awase" (Imperial Palace Poetry Contest of the Tentoku era)

3. 授業の目的と概要：『天徳内裏歌合』について輪読と発表を繰り返し行う中で、古典作品の本文の立て方や注釈の付け方、考察の方法等について、実践的に学ぶことを目的とする。また古典作品の鑑賞について学習することを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to practically learn how to make the text of a classic work, how to annotate it, and how to consider it, while repeatedly reading and presenting "Tentoku Dairi Uta-awase". It also aims to learn about appreciation of classical works.

5. 学修の到達目標：『天徳内裏歌合』を素材に、以下について学習することを到達目標とする

- (1) 変体仮名の読解と翻刻、校訂本文の作成、注釈など、古典文学研究のための基本的な作業・所作について、実践的に学ぶ。
- (2) 和歌をはじめとする古典文学についての理解を深めるとともに、古典文学を読み進めるために必要な文献など、情報収集の手段や方法についても知識を得、その活用の仕方についても学ぶ。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal is to learn about the following using "tentoku Dairi Uta-awase" as a material.

(1) Practically learn basic tasks for classical literature research, such as reading comprehension of Hentaigana, writing texts, and annotations.

(2) To deepen the understanding of classical literature such as waka poems, acquire knowledge about the means and methods of collecting information such as the literature necessary for reading classical literature, and learn how to utilize it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。授業内容の説明、各回の発表者の決定。
2. 『天徳四年内裏歌合』および歌合についての講義。変体仮名の読解練習の説明。
3. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
4. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
5. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
6. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
7. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
8. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
9. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
10. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
11. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
12. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
13. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
14. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習
15. 発表と質疑応答。／ 変体仮名の読解練習

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポートの内容 [50%]、授業への参加の度合い (出席・質疑応答) [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：萩谷朴，谷山茂校注『歌合集 (日本古典文学大系 74)』(岩波書店、1965年)。『実用変体がな』(新典社)。

参考書：変体仮名の読解練習に用いる影印についてはプリントで配布する。その他、教場で指示する。

10. 授業時間外学習：事前に配布される発表資料に目を通し、質問事項を予め用意しておくこと。授業で扱う範囲外の部分についても、自学自習の上、作品内容の把握に努めること。また変体仮名のアプリを使う (遊ぶ) など、日常的に変体仮名の世界に触れること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

『天徳内裏歌合』は、後世、内裏歌合の模範として仰がれ続けた日本文化史上、記念すべき行事です。百人一首にとられた有名な和歌もあり、記録も豊富に残っていることから、行事の内容や規模をある程度、復元することができます。本イベントの内容について学ぶとともに、歌合という競技を追体験することで、和歌の鑑賞に役立てていきます。

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭

コード：LB32206, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世古文書読解入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：古文書とは、差出人と受取人とが明示されている歴史的な文書をいう。身近な例で言えば、手紙、合格通知、入学許可書、授業料納入通知書、授業料領収書、学位記等が一定の年月を経れば古文書となる（日記や編纂物、文学作品等は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、中世の武家様文書を主な素材として、用字・用語に習熟するとともに、様式の展開についてはその歴史的背景についても学べるようにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Historical materials whose sender and recipient are clearly stated. This is the definition of ancient documents (komonzyo). For example, old letters, old acceptance notices, old admission letters, old tuition fee invoices, old tuition fee receipts, old degrees. However, diaries and compilations are excluded. Ancient documents are the most important historical materials for historical research. Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding warrior documents of Medieval Japan. In this class, you will also learn about the form of the ancient document and their changes including historical backgrounds..

5. 学修の到達目標：(1) 中世の原文書を読解できるようになる。

(2) 中世古文書学の基礎知識を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：(1) Students will develop basic reading skills and build a vocabulary crucial to understanding original warrior documents of Medieval Japan.

(2) Students will acquire the basic knowledge of diplomatics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の傳達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 譲状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

8. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容と授業への参加度）[20%]

9. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (Pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：古文書学／Paleography

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB43403, 科目ナンバリング：LHM-HIS206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近世古文書読解

2. Course Title (授業題目)：Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course is designed to help students understand the basics of reading early modern Japanese documents. Students are required to prepare for the assigned part of the designated handouts for each class. References(handouts) are provided.

5. 学修の到達目標：(1)近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2)近世古文書の読解能力を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop basic skills to reading early modern documents.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

本講義は対面で実施する予定であるが、感染状況等により変更の可能性はある。

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の読解法とその訓練
4. 武家文書 (1) 将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書 (2) 将軍発給文書②
6. 武家文書 (3) 将軍発給文書③
7. 武家文書 (4) 老中発給文書①
8. 武家文書 (5) 老中発給文書②
9. 武家文書 (6) 幕府発給廻状
10. 町方・村方文書 (1) 定
11. 町方・村方文書 (2) 人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書 (3) 年貢関係文書
13. 町方・村方文書 (4) 商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書 (5) 家・個人文書

15. 講義のまとめ・試験

8. 成績評価方法：

出席[20%]・確認テスト[80%]

9. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

10. 授業時間外学習：予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解しておく。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50 (要予約)

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB51201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：戦後文学の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Study on Postwar Japanese literature

3. 授業の目的と概要：本講義では、第二次世界大戦後における日本文学の諸問題について検討を行う。前半は、占領期（1945～1952）を中心として、1950年代までの文学の多様な様相について、代表的な文学者のテキストの分析を通して確認する。後半は、川端康成の文学活動および主要な小説テキストの検討を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this lecture, we will examine various issues in Japanese literature after World War II through the analysis of novels by Kawabata Yasunari and other important authors.

5. 学修の到達目標：文学テキストを、社会的・文化的なコンテキストとの関わりを視野に入れて多面的に読み解く能力を養い、戦後日本文学の特性や意義について理解を深める。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To develop the ability to read and understand literary texts from multiple perspectives, taking into account their relationship to social and cultural contexts, and to deepen understanding of the characteristics and significance of postwar Japanese literature.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 石川淳「焼跡のイエス」を読む
3. 太宰治「ヴィヨンの妻」を読む
4. 原民喜「夏の花」他を読む
5. 野間宏「顔の中の赤い月」を読む
6. 吉屋信子「鬼火」を読む
7. 安岡章太郎「ガラスの靴」を読む
8. 安部公房「変形の記録」を読む
9. 川端文学の展開—敗戦後まで—
10. 川端康成「反橋」連作を読む
11. 川端康成『山の音』を読む①
12. 川端康成『山の音』を読む②
13. 川端康成『山の音』を読む③
14. 川端康成「片腕」を読む
15. 授業のまとめ—現在への通路—

(質問への応答、補足説明などによって、予定通りに進まないことがあります。)

8. 成績評価方法：

最終レポート (50%)・授業への出席 50%。毎時間提出するコメント用紙の内容も平常点の一部として加味する。

9. 教科書および参考書：

川端康成『山の音』(新潮文庫)

他のテキストはプリントで配布する。また、参考書等については教室で指示する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げる作品を事前に精読しておくこと。また、授業を通して関心を持った問題については幅広く参考文献を読み、考察を深めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

なし

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB52202, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：軍記物語の表現史
2. Course Title (授業題目)：The expression history of Gunki monogatari
3. 授業の目的と概要： 『将門記』『陸奥話記』『後三年記』『保元物語』『平治物語』『平家物語』『承久記』『曾我物語』『太平記』『大塔物語』『義経記』等の平安時代から中世に至る軍記物語作品の記述を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質を明らかにするとともに、作品間の表現の関係や展開を見出し、日本の文学史、文化史にかかわる根源的な問題を考察する。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions of Gunki monogatari, and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学修の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるような読解力、洞察力を身につける。
(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は次の順に進める
 - 1 はじめに一軍記物語の表現史を考察することの目的と意義一
 - 2 『将門記』の表現の特質
 - 3 『将門記』の表現を支えるリテラシー
 - 4 『陸奥話記』の表現の特質
 - 5 『陸奥話記』の表現を支えるリテラシー
 - 6 『後三年記』の表現の特質
 - 7 『後三年記』の表現を支えるリテラシー
 - 8 『将門記』『陸奥話記』『後三年記』と『今昔物語集』
 - 9 『源平闘諍録』の表現
 - 10 『平家物語』四部合戦状本の表現
 - 11 『曾我物語』真名本の表現
 - 12 『大塔物語』の表現の特質
 - 13 『大塔物語』の表現を支えるリテラシー
 - 14 『桂川地藏記』の表現
 - 15 『文正記』の表現
8. 成績評価方法：
学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし
本講義（軍記物語の表現史）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB61201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：『源氏物語』の成立と展開
2. Course Title (授業題目) : Establishment and Development of "The Tale of Genji"
3. 授業の目的と概要：『源氏物語』現五十四帖がいかにして構成されているか、成立の問題、巻序の問題をはじめ、散逸した巻巻（「桜人」「狭筵」「巢守」さらには「輝く日の宮」）についての『源氏釈』『奥入』等の記述を検証する。「輝く日の宮」の巻は存在したのか。また、定家本・河内本成立の過程と意義、別本の価値をも含めた諸本（写本群）についても考察する。『源氏物語』の初期の注釈書や梗概書、系図等にも目配りし、『山路の露』『雲隠六帖』といった補作、さらには平安～鎌倉・室町時代の物語作品における『源氏物語』受容の痕跡をも手がかりとして、平安から中世にかけて、どのような『源氏物語』テキストが流通していたのかを探る。その際、古筆切等、新発見の資料にも目配りしたい。文字テキスト以外に、院政期の『源氏物語絵巻』を、詞書とともに DVD で鑑賞する。復元プロジェクトによって、平安絵師の仕掛けた謎が現代に明らかとなるのか——。このような検証、思考を通して、広く「(源氏物語) とは何か」、を考えていくことを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : We will examine how the "Genji Monogatari" is composed, the problem of establishment, the problem of the volume, and the description of the old commentary on the dissipated volume.
Furthermore, we will explore what kind of "Genji Monogatari" texts were in circulation from the Heian period to the Middle Ages, using supplementary works such as "Yamaji no Tsuyu" (sequel of The Tale of Genji) and Kumogakure Rokujo (Genji's demise: six chapters). In addition, we will watch "Genji Monogatari Emaki" on DVD. Through such verification and thinking, we will think about "what is the Genji story".
5. 学修の到達目標：『源氏物語』の成立と展開、流布と継承、受容および享受の問題を広く学ぶことで、(1)『源氏物語』をめぐる文化の諸現象に対する理解を深め、(2)『源氏物語』を独力で鑑賞し、(3)テキストを批判的に読み解くための基本的な知識を身につける。
6. Learning Goals (学修の到達目標) : By broadly studying the issues of establishment and development, dissemination and inheritance, acceptance and enjoyment of "Genji Monogatari", (1) deepening the understanding of various cultural phenomena surrounding "Genji Monogatari", (2) appreciating the works, and (3) acquire the basic knowledge to read the text critically.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス。講義資料の事前配付。参考文献の紹介。
 2. 『源氏物語』の諸本の異同について。「桐壺」巻を例に考える。
 3. 「幻」巻の異文。ミセケチをめぐる『原中最秘抄』の諸説。
 4. 「柏木」巻の表現と国宝『源氏物語絵巻』の詞書。柏木像の後代への影響。
 5. 「桜人」について。『源氏釈』の逸文から復原する。
 6. 「かかやく日の宮」と並びの巻について。『奥入』の記述から考える。
 7. 藤原定家の『源氏物語』蒐書活動と書写活動。『奥入』と『明月記』紙背から考える。
 8. 「巢守」について (1)。『源氏物語古系図』から復原する。
 9. 「巢守」について (2)。「古筆断簡」『風葉和歌集』から復原する。
 10. 『源氏物語』の構成について。『源氏物語』は五十四帖か。六十巻説、三十七帖説を考える。
 11. 『山路の露』について。補作の試みもしくは『雲隠六帖』。
 12. 『山路の露』を読む (1)。「序文」を読む。
 13. 『山路の露』を読む (2)。薫と浮舟の再会場面を読む。
 14. 『山路の露』を読む (3)。浮舟と手習歌。
 15. 『山路の露』を読む (4)。物語としての独自性。
8. 成績評価方法：

レポート (中間、期末) の内容 [50%]、授業への出席 [50%]。また、毎時間提出するミニッツペーパーの内容は、授業への出席点の一部として加点の対象とする。
9. 教科書および参考書：

すべてプリントを用いる。毎時間用意すること。参考文献は随時紹介する。
10. 授業時間外学習：復習に力を入れること。『山路の露』については、授業で読む箇所以外についても、自分で読み進め、内容把握に努めること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
二年生でも関心のある人は単位にかかわらず受講されたい。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB62201, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：軍記物語の表現史
2. Course Title (授業題目)：The expression history of Gunki monogatari
3. 授業の目的と概要： 『将門記』『陸奥話記』『後三年記』『保元物語』『平治物語』『平家物語』『承久記』『曾我物語』『太平記』『大塔物語』『義経記』等の平安時代から中世に至る軍記物語作品の記述を丁寧に読み解き、文学、文化、社会にかかわる多様な問題を見出す中で、各作品の特質を明らかにするとともに、作品間の表現の関係や展開を見出し、日本の文学史、文化史にかかわる根源的な問題を考察する。毎回の授業の終わりに、授業内容について、考えたこと、関心を持ったことを書いてもらい（これを「小レポート」と呼ぶ）、その回答も交えて、できるだけ対話的に授業を進めて行こうと思っている。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will clarify the characteristics of individual expressions of Gunki monogatari, and position their significance widely in the history of culture and society.
5. 学修の到達目標：(1) 表現の細部を丁寧に捉えて、時代相、世相や筆者の世界観、人間観、社会認識を幅広く深く理解できるように読解力、洞察力を身につける。
(2) 文学、文化、社会を思考する上での問題発見力と専門的知識を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は次の順に進める
 - 1 中世の軍記物語の表現
 - 2 『保元物語』半井本の表現の特質
 - 3 『保元物語』の表現形成
 - 4 『承久記』慈光寺本の表現の特質
 - 5 『承久記』の表現形成
 - 6 『平治物語』の表現
 - 7 『平家物語』の表現の多様性と運動性
 - 8 『平家物語』の表現の様式性
 - 9 『平家物語』の表現の特質
 - 10 『太平記』の表現の特質
 - 11 『太平記』の歴史叙述が意味するもの
 - 12 『曾我物語』の表現形成
 - 13 『義経記』の表現の特質
 - 14 『明智軍記』の表現の特質
 - 15 表現史とリテラシー史
8. 成績評価方法：
学期末に提出してもらうレポート [60%]・小レポート [40%]
9. 教科書および参考書：
教科書は使用せず、プリントを使って授業を進める。参考書は、授業の中で随時紹介する。
10. 授業時間外学習： 授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。
 - 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：なし
本講義（軍記物語の表現史）は、第5 semesterから連続して履修すること。

科目名：日本文学各論／ Japanese Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

Semester：集中 単位数：2

担当教員：松本 真奈美

コード：LB98808, 科目ナンバリング：LHM-LIT301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：古典文学における「陸奥」

2. Course Title (授業題目)：“Michinoku” in Japanese classical literature

3. 授業の目的と概要：韻文学を中心とする日本の古典文学において、陸奥の諸地域がどのように表現されているかについて、具体的な作品を読み進める形をとりながら明らかにする。併せて、陸奥という地域にゆかりのある歌人・俳人たちがどのように生き、どのような作品を残したかについても紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will clarify how the various regions of “Michinoku” are expressed in Japanese classical literature centered on verse while reading the work. At the same time, this class will also introduce how the Waka poets and Haiku poets associated with the area called “Michinoku” lived and left their works.

5. 学修の到達目標：陸奥という地域の歴史を視野に入れつつ、古代から近世に至る陸奥ゆかりの文学作品の諸相について理解する。その理解に基づき、古典文学史における陸奥の位置づけを考察し、自分の言葉で説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand various aspects of literary works related to “Michinoku” from ancient times to early modern times, while keeping in mind the history of the region called “Michinoku”. Based on that understanding, students will be able to consider the position of “Michinoku” in the history of classical literature and explain it in your own words.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業ガイダンス、和歌・短歌・俳諧・俳句とは何か
2. 『万葉集』と陸奥
3. 『古今和歌集』と陸奥、歌枕とは何か
4. 『伊勢物語』と陸奥
5. 平兼盛、源重之と陸奥
6. 藤原実方と陸奥
7. 能因法師と陸奥
8. 西行法師と陸奥
9. 伊達政宗と陸奥
10. 松尾芭蕉の生涯と『おくのほそ道』
11. 『おくのほそ道』を読む — 旅立ちから遊行柳まで —
12. 『おくのほそ道』を読む — 白河の関、笠島、武隈の松 —
13. 『おくのほそ道』を読む — 宮城野、松島、平泉 —
14. 『おくのほそ道』を読む — 立石寺、象潟 —
15. 授業のまとめ

8. 成績評価方法：

- ①授業への参加態度および各回授業後に提出を求める小レポート (40%)
- ②最終レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、プリントを配布して授業を進める。参考書は授業時に紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取りあげる作品や人物について、概要を調べておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

講義科目ではあるが、随時受講者との意見交換を行いながら授業を展開する。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB51403, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：『石清水物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Iwashimizu Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『石清水物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will read the volume captioned from "Iwashimizu Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学修の到達目標：『石清水物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Iwashimizu Monogatari", students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. ガイダンス (発表者及びローテーション決定)
02. 解説 (『石清水物語』の成立、内容、諸本、影響作について)
03. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 上巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 上巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 上巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート (発表のまとめ) の内容 [60%]、授業への参加 (質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】三角洋一 校訂・訳注『中世王朝物語全集 5 石清水物語』(笠間書院、2016 年) を用いる。

【参考書】宮崎裕子『校本石清水物語』(新典社、2020 年)、宮崎裕子『石清水物語の研究 第三系統伝本の校本と影印』(新典社、

2014年)、関本真乃『後嵯峨院時代の物語の研究 『石清水物語』『苔の衣』』(和泉書院、2018年)。

10. 授業時間外学習: 毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他: なし

- ・本演習は、第6セメスターも連続して受講することが望ましい。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：横溝 博

コード：LB61401, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：『石清水物語』の研究

2. Course Title (授業題目)：Study of "Iwashimizu Monogatari"

3. 授業の目的と概要：『石清水物語』を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【考察】をレジюмеとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will read the volume captioned from "Iwashimizu Monogatari". The person in charge summarizes the [abstract] and [consideration] of the assigned range as a resume, prepares it as a material, distributes it in advance, and announces it. The aim is to improve the reading comprehension of the story by reviewing and brushing up the issues raised by the presenters with all participants.

5. 学修の到達目標：『石清水物語』を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By carefully reading "Iwashimizu Monogatari", students will deepen your understanding of the fictional method of the story, the way the figure is modeled, the style of expression including narrative and waka poems, and the structure of the story. Learn how to use various annotations and various dictionaries, and acquire basic knowledge related to reading comprehension of works. Through the above, by improving the ability to "read" the story, students will acquire the basic knowledge and skills to tackle the problem researchfully.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

01. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
02. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
03. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
04. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
05. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
06. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
07. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
08. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
09. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
10. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
11. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
12. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
13. 下巻の輪読
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
14. 下巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ
15. 下巻の自由発表
(1) 発表 (2) 質疑応答 (3) まとめ

8. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート(発表のまとめ)の内容 [60%]、授業への参加(質疑応答を含む) [40%]

9. 教科書および参考書：

【テキスト】三角洋一 校訂・訳注『中世王朝物語全集5 石清水物語』（笠間書院、2016年）を用いる。

【参考書】宮崎裕子『校本石清水物語』（新典社、2020年）、宮崎裕子『石清水物語の研究 第三系統伝本の校本と影印』（新典社、2014年）、関本真乃『後嵯峨院時代の物語の研究 『石清水物語』『苔の衣』』（和泉書院、2018年）。

10. 授業時間外学習：毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。授業での質疑応答はディスカッションやコメントのトレーニングとなるよう期している。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

- ・本演習は、第5セメスターから連続して受講すること。
- ・物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや発見、興味を大事にしていきます。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB53204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on short stories in the Taisho period

3. 授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920 年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this exercise, we will analyze short stories published in the 1910s-1920s, mainly in the Taisho period (1912-1926), from various perspectives. Students will present the results of their analysis of the works they are assigned.

5. 学修の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze literary works and present the results of the analysis.

(2) To deepen understanding of the characteristics of literature in Japan during the Taisho era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. ガイダンス 2—大正期文学の諸問題

3. 担当者による口頭発表と討論

4. 担当者による口頭発表と討論

5. 担当者による口頭発表と討論

6. 担当者による口頭発表と討論

7. 担当者による口頭発表と討論

8. 担当者による口頭発表と討論

9. 担当者による口頭発表と討論

10. 担当者による口頭発表と討論

11. 担当者による口頭発表と討論

12. 担当者による口頭発表と討論

13. 担当者による口頭発表と討論

14. 担当者による口頭発表と討論

15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は第 6 セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

semester：6 単位数：2

担当教員：仁平 政人

コード：LB63204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：大正期の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：Study on short stories in the Taisho period

3. 授業の目的と概要：この授業では、大正期（1912～1926）を中心として、1910～1920年代に発表された多様な短篇小説について、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおして、小説の精緻な読解を試みる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this exercise, we will analyze short stories published in the 1910s-1920s, mainly in the Taisho period (1912-1926), from various perspectives. Students will present the results of their analysis of the works they are assigned.

5. 学修の到達目標：(1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。

(2) 大正期の日本における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To learn how to analyze literary works and present the results of the analysis.

(2) To deepen understanding of the characteristics of literature in Japan during the Taisho era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 担当者による口頭発表と討論
2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

8. 成績評価方法：

授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

9. 教科書および参考書：

講義資料として、配布プリントを使用する。その他の関連文献は授業中に適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：授業で取り上げるテキストを、受講者全員が事前に時間をかけて精読しておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習は第5semesterから連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB54208, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：中世の日記文芸、紀行文芸の研究

2. Course Title (授業題目) : Study on literary diary and travel works in medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『建礼門院右京大夫集』『海道記』『東関紀行』『十六夜日記』『とはずがたり』『竹むきが記』等の中世の日記文芸、紀行文芸の考察の実践を通して理解して行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on literary diary and travel works in medieval Japan.

5. 学修の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
2. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
3. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
4. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
5. 中世の日記文芸、紀行文芸についての解説
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の研究）は、第6セメスターも連続して履修すること。

科目名：日本文学演習／ Japanese Literature (Seminar)

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰

コード：LB64204, 科目ナンバリング：LHM-LIT317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】国文学各論

1. 授業題目：中世の日記文芸、紀行文芸の研究

2. Course Title (授業題目) : Study on literary diary and travel works in medieval Japan

3. 授業の目的と概要： 文学、文化、社会を発見的に考究するためには何に注目し、どのような段階を踏んで思考を進めればよいのかということ、『建礼門院右京大夫集』『海道記』『東関紀行』『十六夜日記』『とはずがたり』『竹むきが記』等の中世の日記文芸、紀行文芸の考察の実践を通して理解して行く。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will understand what to think creatively about literature, culture and society by practicing the study on literary diary and travel works in medieval Japan.

5. 学修の到達目標： 文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための読解力、分析力、専門的知識、表現力を高める。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students acquire knowledge and ability necessary to think about literature, culture and society creatively.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

8. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

9. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

10. 授業時間外学習： 各回で考察対象となる物語の記述をあらかじめよく読んで授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

本演習（中世の日記文芸、紀行文芸の研究）は、第5セメスターから連続して履修すること。